opusdei.org

## 属人区長の手紙 (2016年3月)

属人区長は今月の手紙で、3 月の様々な典礼の祝日に触れると共に、私たちキリスト者は平和を広める力を持っていることについて語る。

## 2016/03/11

愛する皆さん、イエスが私の子ども たちをお守りくださいますように!

近々、司祭を目指している6人のア ソシエートである皆さんの兄弟に助 祭叙階の秘跡を授けます。私と一致 してこの賜に感謝し、一教会においてもオプス・デイにおいても 一ひとえに人々の善のみを求める忠実な司牧者が欠けることのないよう神にお願いしましょう。この慈しみの聖年を活用して、教会と世界のため、教皇様に固く一致して集中的に嘆願することにしましょう。

「神のいつくしみは人間の心を変えます。神のいつくしみは、人に真の愛を体験させることによって、人くします。神のいつ生活をあわれみ深くします。神のい生活を明らし、隣人を愛するよう導き教どの伝承が、精神的身体的善のわらとなるのために尽力するよう促すとき、たえず新たにされる奇跡です」[i]。

これからの数か月間、隣人の精神的 身体的善のためどのように配慮した らよいかを、糾明することにしま しょう。愛のわざは、神への真の愛 をあらわします。聖ヨハネが言っています。「『神を愛している』と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが神から受けた掟です」[ii]。

次の3月11日のドン・アルバロの誕 生記念日には、善良で忠実な主のし もべを喜びのうちに思い起こしま しょう。教会が祭壇上で祝う福者と 宣言したのは、聖ホセマリアから教 わったオプス・デイの精神を ― ど こまでも忠実に 一 自分のものにさ れたからです。ドン・アルバロは、 自分を輝かせたり、創立者と同等に 考えたりすることは決してありませ んでした。度々、深い謙遜から誠実 に、自分は創立者の影であり、創立 者が天国からオプス・デイを導くた め一神がそのようにお望みになっ

たから — 使う道具に過ぎないと 言っておられました。

ある心遣いがドン・アルバロのこの 深い心情を理解するのに役立つで しょう。聖ホセマリアに同伴して団 欒に来られる時、誰かがドン・アル バロに近寄ると、すぐ「パドレの傍 にどうぞ、パドレと一緒に | と言わ れるのでした。いつもそうして、兄 弟姉妹 ― 後には娘たち息子たち ― を創立者に向かわせるのでした。こ れこそ、オプス・デイの精神を知 り、それを自分のものとして生きて いくための「正規のルート」です。 創立者と同列に並ぼうなどとはいさ さかも望みませんでした。主が、オ プス・デイの精神を全面的に自分の ものにする最初で唯一の人となるよ う準備されたのは、聖ホセマリアだ と納得しておられたのです。

創立者の謙遜な言動はいつも、わた したちにとって、もちろんドン・ア

ルバロにとっても、はっきりとした 教えでした。ここで細やかなエピ ソードを話しましょう。オプス・デ イに関する聖座のある承認のニュー スをバチカン放送で聞いたときのこ とです。アナウンサーが聖ホセマリ アの横顔を話し始めると、赤面して 肩をすぼめ小さくなっていました。 その姿は、常々自分のことを聖体の 祝日の典礼賛歌の一節を引用して servus pauper et humilis[iii], 私は貧 しく卑しいしもべにすぎない、と 言っていたことを明瞭に思い出させ ました。

隣人への愛徳の実行について話しましたが、幾つかの精神的慈善のわざに注目しようと思います。最後の審判においては、隣人の物的な必要に配慮したか尋ねられるでしょうがない他の質問にも答えなければならなが、いはずです。「不安や孤独の原因になりがちな疑いの心をもつ人が、そこから抜け出すために力を貸したか。

(…) 何百万もの人の教育を受けられない状態を打ち破ることができたか。一人ぼっちで苦しむ人に寄り添ったか。自分を傷つける人をゆるし、暴力を招く恨みと敵意のすべてを捨てたか。わたしたちに対してなれほど忍耐強い神に倣い忍耐したか。最後に、兄弟姉妹のことを祈りの中で主にゆだねたか」[iv]。

教皇様が掲げられた精神的慈善のわざの一覧に共通することは人々の心に平和を植え付ける熱望です。初代信者間で、そして今はオプス・デイで使われている挨拶の意味について聖ホセマリアに尋ねた時のことを覚えています。答えはこうでした。

んが、どこであろうと私たちがいるところに平和をもたらそうと努めます。私たちや人々が激情にかられてイライラしているとき、少しの思いやりと協調性、一言で言うと、愛を注ぐことになるのです。つまり、平

「Pax! と叫びたてることはありませ

和をもたらし平和のうちに留まるための手段です。

Pax vobis! 覚えているでしょう? Clausis ianuis (ヨハネ20,26)戸にはみな鍵がかけてあったのに、主が来て『あなたがたに平和があるように』と言われたのです。同じように、この地上においても時々八方ふさがりの状態に思えることがありますが、そんな時、私たちは平和を失ったりしないばかりか、pax vobis 隣人に平和をもたらさなければなりません」[v]。

そして加えました。「無理解や組織的な中傷があっても、偽りや名誉棄損…に遭遇しても、いつも毅然と対する者とない。イエス・おそのことをあなた方に教えてはおいます。私には初いための教師がありました。最初にはのための教師がありました。最初によるの後一恥ずかしがらずにそ

れを明かします。高慢ではないので すから一、聖霊でした」[vi]。

聖ホセマリアの最初の後継者福者ア ルバロは、この教えをしっかり受け 止めていたので、人生の途上で出 会った人々の、物的精神的な必要性 に細心の注意を払って配慮していま した。多くの人を快く迎え、打ち明 け話に耳を傾けていたことが思い起 こされます。多分わずかな時間だっ たでしょうが、話し終えた人たちは 落ち着いた様子でいつもの仕事に 戻っていくのでした。周りの人々に 平和と喜びの種まきをすることがで きたのは、創立者に教わったことを 伝えるよう努めておられたからだ と、数知れない人が認めています。

聖ホセマリアは、子どもたちのことを、まさしく「平和と喜びの種まき人」と言い表していました。聖座の古い文書も、オプス・デイのメンバーのことを語るのに同じ表現を

使っています。この精神を培いたい と思う人々に 一 オプス・デイの信 者であろうとなかろうと 一 お勧め します。いつも関わっている人だけ でなく、一時的に関わる人でも、彼 らの精神的飢えを満たすよう努めて ください。愛想のよい人でありなさ い。いつも、人々の心配事に耳を傾 け、もし彼らが望むなら相応しい助 言をすることです。本人とか隣人な どの病気や家族の死、多くの国が経 済危機の現状で失業しているとか、 いろいろな理由で苦しんでいる人を 慰めることです。時には、解決策を 思いつかないこともあるでしょう が、決して思いやりの心を失っては なりません。彼らと連帯して祈り、 その悲しみや困難を共有することで す。

聖パウロが言っています。「私たちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますよ

うに。神は、あらゆる苦難に際して わたしたちを清めてくださるので、 わたしたちも神からいただくこの慰 めによって、あらゆる苦難の中にあ る人々を慰めることができます」 [vii]。

聖ホセマリアは強調していました。 「全ての人が愛情を必要としていま す。オプス・デイにおいても同じで す。感傷的になることなく兄弟への 愛情を深めるよう努めなさい。神に 倣った生活ができるよう心を配りな さい。いつも、愛情を持って助け合 い、兄弟説諭を心掛けなさい」 [viii]。全ての人に対してこのように 振る舞うべきですが、特に ― 愛徳 は秩序あるものですから 一 オプ ス・デイの信者、私たちの使徒職に 与っている人たちから始めることで す。それと同時に全ての人に向かい ます。一人ひとりに関心があるので すから。

福者アルバロは聖ホセマリアの教えに従い、この世のあらゆる道でうことを喜びの種まき人」にされまれると、次のなた方は、いつも平ればなりません。「あなた方はなりません。で過ごさなければなりません。皆きんのその落ち着きによなど近したらなだち、同僚や知人なに平和をもたらから始め、人々に平和をもたらってす」[ix]。

今月の後半の典礼は多様な祝日で私たちを喜びに与らせます。順を追ってみると、まず3月19日は教会とオプス・ディの保護者聖ヨセフの祭・ディの日は、私たちがオプス更日は、私たちがオアスを更いる日です。そして、司祭職、修道をおいる。その真只中での、神へるよりの召し出しの数と質が高まるよう願うための絶好の機会です。

翌日の20日には、27日の復活の主日で締めくくられる聖週間が始まりま

す。四旬節の終わりの日々を新たな 熱意を込めて過ごすことにしましょ う。そうすると心の底から復活の喜 びに与ることができます。

28日は、聖ホセマリアの司祭叙階記 念日です。今年は、復活の月曜日に 当たります。これによって、喜びは 深まり創立者のような聖人を、教会 にお与えになった神への感謝に拍車 がかかります。創立者は忠実に応え て、数知れない人たちのため「地上 における神への道 | を拓いたからで す。今月の末日には、1935年、オプ ス・デイのセンター、フェラスの寮 に初めてご聖櫃が安置されたことを 記念します。それ以来、主はオプ ス・デイとその使徒職にどれほど多 くの恩恵をもたらされたことでしょ う。ご聖体への信心を深めつつ、近 くにおられるイエスに感謝しましょ う。

教皇様のため、教会統治における協力者、世界中の司教、司祭のために祈り続けましょう。その方々が、心も思いも一つにして[x]、神の栄光のため全ての人への奉仕に全力を傾けてくださるためです。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2016年3月1日

[i] 教皇フランシスコ、2015年10月4日『2016年の四旬節メッセージ』。

[ii] 1ヨハネ4,20-21。

[iii] 聖体の祭日のことばの祭儀で朗読される聖トマス・アクイナス作の賛歌。

[iv] 教皇フランシスコ、2015年4月 11日大勅書『いつくしみのみ顔』15 番。

[v] 聖ホセマリア、1971年1月1日家 族の集まりでのメモ。

[vi] 同上。

[vii] 1コリント1,3-4。

[viii] 聖ホセマリア、1968年10月6日 家族の集まりのメモ。

[ix] 福者アルバロ、1985年3月30日 説教("Rezar con Álvaro del Portillo", Ed.Cobel, 2014,p.44)。

[x] 使徒言行録 4,32参照。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchouno-tegami-2016-3/(2025/12/15)